

# ペア学習や小集団学習の現状と課題 小学校から大学までの教師アンケートを通して

福本 義久

## 1. はじめに

大学の授業改革として始まった「アクティブ・ラーニング」は、初等教育や中等教育において実施するに当たり、「主体的・対話的で深い学び」に改めることになったが、その背景には、「アクティブ・ラーニング」ブームの中で知識の内化を抜きにした学び合いやグループ学習(以降、小集団学習と称す)が広がった(松下, 2017, p.3) ことがある。つまり、授業の中で、学習者に2人一組のペア学習や3人以上の小集団学習を取り入れているが、学習効果を上げる指導ができない教師の実態が指摘されている(石井, 2018, p.64; 木曾, 2016, p.87; 楠, 2016, p.64; 水野, 2019, p.146)。

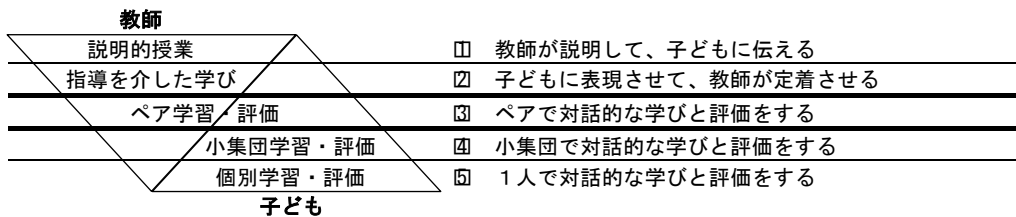


図1 教師主導や学習者主導の多様な学習形態

安藤輝次は、ペア学習が教師主導と学習者主導の中間の学習形態である点に着目して、D.フィッシャーたち(フィッシャー他, 2017, p.8)による「効果的な指導の枠組み」に「ペア学習・評価」を加筆して図1を作成した。そして、㊶の「説明的授業」に慣れ親しんできた中学校や高校の教師にとっては、いきなり㊹の「小集団学習・評価」や㊺の「個別学習・評価」という子ども主導の授業に移行するのは難しいので、㊸の「ペア学習・評価」を介在させて㊹や㊺との橋渡しをする必要があるのではないかと述べる(安藤, 2018, p.54)。

しかし、本当に「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」が十分に行われていないのだろうか。また、学級担任制の小学校と教科担任制の中学校や高等学校、大学とで違いがあるのだろうか。さらに、「ペア学習・評価」と「小集団学習・評価」との類似した点もあるのかもしれない。

本稿では、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」に関わって、小学校から大学まで縦断的に調査することで、その現状や課題を明らかにしたい。そのため、筆者のペア学習に関する研究の視点を小集団学習にも広げ、次の3点について明らかにすることを目的にする。

- (1) 普通の授業形態と「ペア学習・評価」「小集団学習・評価」の実施頻度
- (2) 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」の位置づけ
- (3) 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」に関する指導の実態

そこで、(1)については、図 1 に示した 5 つの授業形態をどの程度実施しているのかを調べ、(2)は、教師や学習者が、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」をどのようにとらえているのか、また、評価活動を位置付けているかどうかを尋ね、(3)に関しては、教師が、学習効果を高めたり把握したりするための手立てを講じているかどうかを検討したい。

## 2. 調査

### 2.1. 対象

本調査は、表 1 に示したように、N 県 K 市立 S 小学校、N 県立 S 中学校、同 S 高等学校と筆者の勤務する私立 S 大学において実施した。S 中学校と S 高等学校は、中高一貫校<sup>1)</sup>であり、教師は両校を兼務しているため、配布数、回収数、回収率、調査期間は統合して示した。合計 223 名の教師に資料 1 の質問紙を配布し、回答は任意にして無記名方式で行い、102 名から回答を得た（回収率 45.7%）。S 大学以外のアンケート実施先の所属長に対しては、筆者がアンケート調査の趣旨説明と協力依頼を行った上で承諾を得て実施した。S 大学については、担当部署を通してアンケート調査の許可を取り、個人のメールアドレスに質問紙と依頼書を投函して配布し、筆者のメールアドレスに回収した。表 1 で、S 大学の回収率が 28.4%と低かったのは、調査期間が年末であったことや質問紙をメールアドレスに投函したのみで、重ねて協力を依頼したり提出を催促したりしなかったためであると推察できる。なお、学部別の回収数（回収率）は、経営学部 2 名（13.3%）、人文社会学部 12 名（26.0%）、看護学部 4 名（13.3%）、教育学部 21 名（43.7%）、保育科 1 名（4.5%）、所属学部不明 5 名、であった。

表 1 アンケート調査の実施状況

アンケート実施先	配布数	回収数	回収率	調査期間
N 県 K 市立 S 小学校	33	29	87.8%	2019 年 11 月 14 日～12 月 23 日
N 県立 S 中学校	32	28	87.5%	2019 年 11 月 20 日～12 月 10 日
N 県立 S 高等学校				
私立 S 大学	158	45	28.4%	2019 年 11 月 25 日～12 月 26 日
合計	223	102	45.7%	

### 2.2. 質問項目

本調査では、前節で述べた 3 点を明らかにするため、表 2 に示す 6 つの趣旨に細分して全 13 項目の質問を設けた。質問 1 は、図 1 に示した 5 つの授業形態を活用し、それ以外の 12 項目の質問は、Winstone, N. and Carless, D. (2019) を参考に筆者が作成した。

表 2 アンケートの質問と分類趣旨

目的	質問	趣旨
(1)	1	普通の授業で最も頻繁に実施する授業形態
	2, 3	「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」の実施頻度
(2)	4, 5, 6	「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」に対する教師と学習者の捉え方
	7, 8, 9	「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」で評価活動を取り入れているか
	10, 11	「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」に関する指導
(3)	12, 13	学習状況の形成的・総括的アセスメント

## 3. 結果と考察

本節では、表 2 に示した趣旨毎に結果を整理する。その際、それぞれの結果を示す表には、校種別に選択肢毎の回答率を示し、70%以上の結果には網掛けを施して強調した。なお、アン

ケートの最後に設けた自由記述欄には、大学で延べ12件（10名）の回答があったので、資料2に所属学部を文末に記して原文のまま掲載したが、他校種での自由記述がなかったため、本稿では考察していない。

### 3.1. 普段の授業形態と「ペア学習・評価」「小集団学習・評価」の頻度

#### 3.1.1. 普段の授業で最も頻繁に実施する授業形態

質問1の結果を整理した表3では、左から順に、質問と5つの選択肢、校種別の回答率を上段に示し、㊦と㊧を合わせて「㊦教師主導」、㊦と㊧を「㊦子ども主導（以降、「学習者主導」と表記する）」にまとめた回答率を下段に記した。この結果から、普段の授業で最も頻繁に実施している授業形態についての特徴を検討する。

表3 質問1の結果

質問		選択肢	㊦	㊧	㊨	㊩	㊪
1	普段の授業で、最も頻繁に実施している授業形態はどれですか？ ㊦ 説明的授業 ㊧ 指導を介した学び ㊨ ペア学習・評価 ㊩ 小集団学習・評価 ㊪ 個人学習・評価	選択肢	㊦教師主導		㊦学習者主導		
		小学校	19.6%	58.9%	7.2%	10.7%	3.6%
			78.5%		14.3%		
		中学校	32.3%	29.0%	12.9%	12.9%	12.9%
		高校	61.3%		25.8%		
		大学	36.4%	23.6%	14.6%	21.8%	3.6%
	60.0%		25.4%				

全校種に共通する特徴は、第一に、「㊦説明的授業」と「㊧指導を介した学び」を合わせた「㊦教師主導」の授業を最も頻繁に行う教師が60%以上いること、第二に、「㊩小集団学習・評価」と「㊪個人学習・評価」による「㊦学習者主導」の授業を行う教師は26%より少ないこと、第三に、「㊨ペア学習・評価」は15%未満の教師しか行っていないこと、である。

校種別に見た相違点は、小学校の場合、「㊧指導を介した学び」を最も頻繁に行う教師が58.9%で顕著に高いこと、中学校と高校に関しては、「㊨ペア学習・評価」と「㊩小集団学習・評価」と「㊪個人学習・評価」が、いずれも12.9%であり、大学では、「㊨ペア学習・評価」よりも「㊩小集団学習・評価」を取り入れる教師の方が多く、の2点を挙げることができる。

このように、6割を超える多くの教師が、「㊦教師主導」の授業を最も頻繁に行っており、次いで、「㊩小集団学習・評価」を実施する教師が1割から2割いて、1割前後の教師が「㊨ペア学習・評価」を取り入れ、「㊪個人学習・評価」を頻繁に行う教師は極めて少ない。

#### 3.1.2. 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」の実施頻度

質問2の「授業の中で『ペア学習』や『小集団学習』を実施しますか？」と質問3の「説明的な授業の中でも、学びの節目で『ペア学習』や『小集団学習』を実施しますか？」により、教師が「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」をどの程度の頻度で授業に取り入れているかを調べ、その結果を表4に示した。質問2を例に表の見方を説明すると、左から順に、質問番号、質問と選択肢を示し、校種別に、「ペア学習・評価」と「小集団学習・評価」での選択肢毎の回答率を上段に、それを2つに纏めた回答率を下段に記した（以後、同様の見方をする）。

質問2の結果で、全校種に共通して言えることは、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を「実施しない」教師が多いことである。校種別に見ると、小学校では、「ペア学習・評価」と「小集団学習・評価」を「実施しない」教師は、ほぼ同じだけいるが、中学校と高校では、

表 4 質問 2, 3 の結果

質問と選択肢		ペア学習・評価				小集団学習・評価				
質問	選択肢	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	
		実施する		実施しない		実施する		実施しない		
2	授業の中で「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を実施しますか？  ア：毎時間する イ：大体する ウ：時々する エ：全くしない	小学校	9.7%	22.6%	64.5%	3.2%	3.4%	31.0%	62.1%	3.4%
			32.3%		67.7%		34.4%		65.5%	
		中学校	11.1%	25.9%	44.4%	18.6%	3.7%	7.4%	77.7%	11.2%
		高校	37.0%		63.0%		11.1%		88.9%	
		大学	6.5%	17.4%	37.0%	39.1%	13.3%	29.0%	51.1%	6.6%
		23.9%		76.1%		42.3%		57.7%		
3	説明的な授業の中でも、学びの節目で「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を実施しますか？  ア：毎時間する イ：大体する ウ：時々する エ：全くしない	小学校	10.3%	24.1%	17.2%	48.3%	7.7%	26.9%	23.1%	42.3%
			34.4%		65.5%		34.6%		65.4%	
		中学校	11.2%	44.4%	0.0%	44.4%	3.7%	44.5%	0.0%	51.8%
		高校	55.6%		44.4%		48.2%		51.8%	
		大学	14.0%	20.9%	4.6%	60.5%	23.8%	40.5%	4.8%	30.9%
		34.9%		65.1%		64.3%		35.7%		

網掛けして示したように 88.9%の教師が「小集団学習・評価」を「実施しない」が、大学では、逆に、「ペア学習・評価」を「実施しない」教師が 76.1%で、大変多いことがわかる。

質問 3 の結果に関しては、校種を問わずに、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を「実施する」教師が、質問 2 の結果よりも増えている。とはいえ、「実施しない」割合の方が高いことには変わりはない。校種別に見ると、小学校では、微増に留まるが、中学校・高校では、「小集団学習・評価」で約 37 ポイント増、「ペア学習・評価」で約 18 ポイント増と顕著であり、大学では、「小集団学習・評価」で約 22 ポイント増え、「ペア学習・評価」で約 11 ポイント増加している。

以上から、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を取り入れる頻度については、校種によって特徴がある。つまり、大学では、「小集団学習・評価」を取り入れる教師が多いが、中学校や高校では、「ペア学習・評価」を取り入れる教師の方が多く、小学校では、どちらもほぼ同程度である。この傾向は、普通の授業よりも、授業の終末や単元末など学習の節目において高くなる。

### 3.2. 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」の位置づけ

#### 3.2.1. 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」に対する教師や学習者の捉え方

質問 4 「学習者から『ペア学習』や『小集団学習』を実施したいという要望がありますか？」では、学習者が「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」をどう捉えているのかを調べた。そして、「学習者が互いの考えを集約する（まとめる）以外の『ペア学習』や『小集団学習』を取り入れていますか？」という質問 5 では、教師が「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を取り入れる目的を確かめ、さらに、質問 6 の「『ペア学習』や『小集団学習』が、個人やクラス全体の学習態度や学習意欲に影響すると思いますか？」という問いでは、教師が「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を行うことの効果を実感しているかどうかを尋ねて、それぞれの結果を表 5 に示した。

表 5 質問 4, 5, 6 の結果

質問と選択肢		選択肢	ペア学習				小集団学習			
			ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
4	学習者から「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を実施したいという要望がありますか？ ア：いつもある イ：よくある ウ：時々ある エ：全くない	選択肢	ある		ない		ある		ない	
		小学校	0.0%	6.5%	38.7%	54.8%	0.0%	10.3%	48.3%	41.4%
			6.5%		93.5%		10.3%		89.7%	
		中学校	3.7%	22.3%	25.9%	48.1%	3.7%	3.7%	48.1%	44.5%
		高校	26.0		74.0		7.4		92.6	
		大学	0.0%	9.3%	18.6%	72.1%	0.0%	14.0%	37.2%	48.8%
		9.3%		90.7%		14.0%		86.0%		
5	学習者が互いの考えを集約する（まとめる）以外の「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を取り入れていますか？ ア：毎時間する イ：大体する ウ：時々する エ：全くしない	選択肢	実施する		実施しない		実施する		実施しない	
		小学校	6.4%	19.4%	58.1%	16.1%	0.0%	24.1%	51.8%	24.1%
			25.8%		74.2%		24.1%		75.9%	
		中学校	11.1%	11.1%	48.1%	29.7%	3.7%	7.4%	63.0%	25.9%
		高校	22.2%		77.8%		11.1%		88.9%	
		大学	11.1%	6.7%	44.4%	37.8%	8.9%	15.6%	57.7%	17.8%
		17.8%		82.2%		24.5%		75.5%		
6	「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」が、個人やクラス全体の学習態度や学習意欲に影響すると思いますか？ ア：とてもそう思う イ：ややそう思う ウ：あまりそう思わない エ：そう思わない	選択肢	思う		思わない		思う		思わない	
		小学校	38.7%	51.6%	9.7%	0.0%	20.7%	65.6%	10.3%	3.4%
			91.3%		9.7%		86.3%		13.7%	
		中学校	29.7%	66.6%	3.7%	0.0%	29.6%	63.0%	0.0%	7.4%
		高校	96.3%		3.7%		92.6%		7.4%	
		大学	26.7%	57.8%	11.1%	4.4%	29.0%	64.4%	4.4%	2.2%
		84.5%		15.5%		93.4%		6.6%		

質問 4 の結果では、全校種に共通して、学習者から「ペア学習・評価」も「小集団学習・評価」も要望が「ない」と回答した教師が、74%以上もいる。校種別にみると、大学では、「ペア学習・評価」を「全く」「要望しない」が、72.1%で顕著に多い。

質問 5 に関しては、校種を問わず、互いの考えを集約する以外の目的で「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を「実施しない」教師が 74%以上にのぼる。大学では、「ペア学習・評価」よりも「小集団学習・評価」で「実施する」教師が多いが、小学校と中学校・高校では、逆に、「ペア学習・評価」の方が多い。

質問 6 の結果でも、網掛けして示したように、各校種に共通して 84%を超える教師が、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を行うことで、学習者の学習態度や学習意欲に影響すると捉えている。

したがって、どの校種でも、74%以上の教師が学習者の考えを集約する「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を一斉授業の中で一時的に行い、84%以上の教師が、それらを授業に取り入れることで、学習者の学習態度や学習効果に影響を及ぼすと捉えているが、学習者からこれらの学習形態を授業に取り入れてほしいという要望はほとんどない。

### 3.2.2. 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」で評価活動を取り入れているか

質問 7 では、『ペア学習』や『小集団学習』の中で、学習者が『評価規準』や『ルーブリック』を創る機会を設けていますか？と尋ね、そして、質問 8 で「学習者が自分自身の学びを評価する力を伸ばすように支援（相互評価の機会を設ける等）していますか？」と問い、さら

表 6 質問 7, 8, 9 の結果

質問と選択肢		ペア学習				小集団学習				
7	「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」の中で、学習者が「評価規準」や「ルーブリック」を創る機会を設けていますか？ ア：毎時間する イ：大体する ウ：時々する エ：全くしない	選択肢	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
			設けている		設けていない		設けている		設けていない	
		小学校	0.0%	0.0%	35.5%	64.5%	0.0%	3.4%	27.6%	69.0%
			0.0%		100%		3.4%		96.6%	
		中学校	0.0%	11.1%	18.5%	70.4%	3.7%	7.4%	18.5%	70.4%
		高校	11.1%		88.9%		11.1%		88.9%	
大学	2.2%	4.4%	29.0%	64.4%	4.4%	4.4%	46.7%	44.5%		
		6.6%		93.4%		8.8%		91.2%		
8	学習者が自分自身の学びを評価する力を伸ばすように支援（相互評価の機会を設ける等）していますか？ ア：毎時間する イ：大体する ウ：時々する エ：全くしない	選択肢	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
			支援する		支援しない		支援する		支援しない	
		小学校	0.0%	6.5%	58.1%	35.4%	3.4%	10.3%	51.8%	34.5%
			6.5%		93.5%		13.7%		86.3%	
		中学校	0.0%	14.8%	44.5%	40.7%	7.4%	11.1%	33.3%	48.2%
		高校	14.8%		85.2%		18.5%		81.5%	
大学	2.2%	15.6%	35.6%	46.6%	4.4%	29.0%	51.0%	15.6%		
		17.8%		82.2%		33.4%		66.6%		
9	「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を活用してクラス全体の学習成果を一人一人の学びと関連付ける場を設けていますか？ ア：毎時間する イ：大体する ウ：時々する エ：全くしない	選択肢	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
			設けている		設けていない		設けている		設けていない	
		小学校	0.0%	13.3%	63.3%	23.3%	0.0%	17.2%	55.2%	27.6%
			13.3%		86.7%		17.2%		82.8%	
		中学校	3.7%	7.4%	48.2%	40.7%	0.0%	18.5%	29.6%	51.9%
		高校	11.1		88.9		18.5		81.5	
大学	2.2%	13.3%	37.8%	46.6%	4.5%	22.2%	51.1%	22.2%		
		15.5%		84.5%		26.7%		73.3%		

に、質問 9 では、「『ペア学習』や『小集団学習』を活用してクラス全体の学習成果を個人の学びと関連付ける場を設けていますか？」と聞いた。これらの質問により、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」に、評価活動を明確に位置づけているかどうかを調べ、表 6 に整理した。

質問 7 の結果に網掛けしたように、全校種に共通した顕著な特徴として、第一に、88%以上の教師が、「評価規準」や「ルーブリック」を学習者と共有する機会を「設けていない」こと、第二に、その機会を「全く」「設けていない」教師も多いこと、を挙げることができる。校種別にみると、小学校では、「ペア学習・評価」と「小集団学習・評価」で「毎時間」「設けている」教師は皆無であり、「小集団学習・評価」で「大体」設けている教師も 3.4%に留まる。中学校と高校では、「ペア学習・評価」で「毎時間」設けている教師は皆無である。また、小学校と大学では、「ペア学習・評価」の方が「小集団学習・評価」よりも「設けていない」教師が多い。

質問 8 でも、網掛けして示したように、第一に、学習者の評価する力を伸ばすように「支援しない」教師が非常に多いこと、第二に、「ペア学習・評価」の方が「小集団学習・評価」よりも「支援しない」教師が多数いること、が校種を問わずに共通している。校種別に見ると、小学校と中学校・高校の「ペア学習・評価」で「毎時間」「支援する」教師は皆無である。

質問 9 の結果にも、網掛けしたように、全校種に共通する顕著な特徴がある。第一に、個の学びと全体の学びとを関連付ける機会を「設けない」教師が 73%以上で、非常に多いこと、第二に、「ペア学習・評価」の方が「小集団学習・評価」よりも「設けない」教師が多数いること、である。校種別にみると、小学校の「ペア学習・評価」と「小集団学習・評価」、中学校・高校

の「小集団学習・評価」で「毎時間」「設けている」教師が一人もいない。

以上から、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」で評価活動を位置づけている教師は、平均して 2 割にも満たない。特に、「評価規準」や「ルーブリック」を学習者と共有しない教師は、90%前後に上り、「評価規準」や「ルーブリック」に照らし合わせて自己評価や相互評価をさせたり、個人やペア、小集団での学習成果を全体化して広げたり深めたりする学習活動も概ね 8 割以上の教師が取り入れていない。この傾向は、「ペア学習・評価」の方が「小集団学習・評価」よりも強い。

### 3.3. 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」に関する指導

#### 3.3.1. 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」に関する指導・支援

質問 10 『ペア学習』や『小集団学習』における学び合いの意義や目的について学習者と共に話し合ったり考えたりしますか?と、質問 11 「学習者同士が学び合いの方法を工夫するように支援(演示、マニュアル提示、等)していますか?」とで、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を実施する際に、その目的や意義、進め方などの指導をしているかどうかを調べ、その結果を表 7 に示した。

表 7 質問 10, 11 の結果

質問と選択肢		ペア学習				小集団学習				
10	「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」における学び合いの意義や目的について学習者と共に話し合ったり考えたりしますか? ア：毎時間する イ：大体する ウ：時々する エ：全くしない	選択肢	ア		イ		ウ		エ	
			する		しない		する		しない	
		小学校	0.0%	12.9%	71.0%	16.1%	6.9%	10.3%	55.2%	27.6%
			12.9%		87.1%		17.2%		82.8%	
		中学校	3.7%	18.6%	40.7%	37.0%	0.0%	18.5%	37.0%	44.5%
		高 校	22.3%		77.7%		18.5%		81.5%	
11	学習者同士が学び合いの方法を工夫するように支援(演示、マニュアル提示、等)していますか? ア：毎時間する イ：大体する ウ：時々する エ：全くしない	選択肢	ア		イ		ウ		エ	
			支援する		支援しない		支援する		支援しない	
		小学校	0.0%	25.8%	61.3%	12.9%	3.4%	20.7%	48.3%	27.6%
			25.8%		74.2%		24.1%		75.9%	
		中学校	11.2%	29.6%	29.6%	29.6%	3.7%	25.9%	37.0%	33.4%
		高 校	40.8%		59.2%		29.6%		70.4%	
大 学	6.7%	24.4%	31.1%	37.8%	15.6%	31.0%	37.8%	15.6%		
	31.1%		68.9%		46.6%		53.4%			

質問 10 では、75%以上の教師が、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」の意義や目的について学習者と共有「しない」と回答したことが全校種に共通している。

質問 11 の結果からは、校種を問わず、学び方を「支援しない」教師が、53%から 75%で、比較的高いが、質問 10 の結果に比べて「支援する」教師が多い。

このように、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」の進め方については、ある程度説明する教師がいるが、その意義や目的を説明してから実施する教師は少ない。中学校や高校の「ペア学習・評価」と大学の「小集団学習・評価」で、4 割を超える教師が学び方を「支援する」のは、それらの授業形態を取り入れているからにほかならないだろう。

表 8 質問 12, 13 の結果

質問と選択肢		ペア学習				小集団学習				
12	書画カメラやパソコン等の機器を使って学習者の学びの様子をクラス全体で共有していますか？ ア：毎時間する イ：大体する ウ：時々する エ：全くしない	選択肢	ア		イ		ウ		エ	
			共有している		共有しない		共有している		共有しない	
		小学校	6.5%	16.1%	48.4%	29.0%	7.1%	25.0%	46.5%	21.4%
			22.6%		77.4%		32.1%		67.9%	
		中学校	0.0%	7.4%	33.3%	59.3%	0.0%	3.7%	29.6%	66.7%
		高校	7.4%		92.6%		3.7%		96.3%	
大 学		13.3%	17.8%	33.3%	35.6%	13.3%	17.8%	35.6%	33.3%	
		31.1%		68.9%		31.1%		68.9%		
13	「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」に対する教師の介入が、学習成果に影響を及ぼしたという証拠（アンケート、振り返り等）を収集していますか？ ア：毎時間する イ：大体する ウ：時々する エ：全くしない	選択肢	ア		イ		ウ		エ	
			収集する		収集しない		収集する		収集しない	
		小学校	0.0%	3.3%	16.7%	80.0%	3.4%	3.4%	24.1%	69.1%
			3.3%		96.7%		6.8%		93.2%	
		中学校	0.0%	7.4%	33.3%	59.3%	7.4%	7.4%	25.9%	59.3%
		高校	7.4%		92.6%		14.8%		85.2%	
大 学		2.2%	11.1%	29.0%	57.8%	2.2%	20.0%	37.8%	40.0%	
		13.3%		86.7%		22.2%		77.8%		

### 3.3.2. 形成的・総括的アセスメントにより学習状況を捉えているか

質問 12 の「書画カメラやパソコン等の機器を使って学習者の学びの様子をクラス全体で共有していますか？」と質問 13 『「ペア学習」や『小集団学習』に対する教師の介入が、学習成果に影響を及ぼしたという証拠（アンケート、振り返り等）を収集していますか？」により、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」における学習状況を形成的・総括的にアセスメントしているかどうかを調べた。その結果を表 8 から検討すると、次のようなことがわかる。

質問 12 の結果では、学習状況を「共有しない」教師が、67%以上いることが全校種に共通している。中学校と高校では、「ペア学習・評価」と「小集団学習・評価」で「毎時間」学習状況を「共有する」教師が一人もいないことや、大学では、どちらも「共有する」教師は、31.1%であり、他校種に比べて高いことが校種別の特徴である。

質問 13 の結果に網掛けしたように、学習成果のエビデンスを「収集しない」教師は 77%以上で非常に高いことが共通しており、校種別にみれば、小学校と中学校・高校の「ペア学習・評価」で「毎時間」収集する教師は皆無である。

したがって、校種を問わず、約 7 割以上の教師が、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」の途中や終末で、学習状況の出来や不出来を確認して、その解消を図るような手立てを講じたり、学習効果を検証するためのエビデンスを収集したりする形成的・総括的アセスメントを行っていないが、この傾向は、「ペア学習・評価」の方が「小集団学習・評価」よりも強い。

## 4. おわりに

本稿では、小学校から大学までの教師を対象に実施したアンケート調査の結果から、(1) 普通の授業形態と「ペア学習・評価」「小集団学習・評価」の実施頻度、(2) 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」の位置づけ、(3) 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」に関する指導の



実態、の3点を検討したところ、以下のことがわかった。

### (1) 普段の授業形態と「ペア学習・評価」「小集団学習・評価」の実施頻度

6割以上の教師が、「説明的授業」と「指導を介した学び」を合わせた教師主導の授業形態を最も頻繁に行っているが、校種が上がれば、「説明的授業」の割合が高く、小学校では、「指導を介した学び」の方が多かった。また、「小集団学習・評価」を最も頻繁に行う教師は、1割から2割程度であり、「ペア学習・評価」を頻繁に取り入れる教師は、1割前後に留まった。これは、冒頭で取りあげた図1で、「ペア学習・評価」を橋渡しにすることで、学習者主導の授業に移行しようという安藤の主張が、当を得ていることの証左であろう。

さらに、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を行う教師についてみると、小学校では、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」のどちらも3割強の教師が取り入れているが、中学校や高校の教師は、「ペア学習・評価」を「小集団学習・評価」よりも多用し、大学では、「小集団学習・評価」を取り入れる教師が「ペア学習・評価」を行う教師の2倍近かった。つまり、小学校の教師は、「指導を介した学び」を頻繁に行う中で、「ペア学習・評価」と「小集団学習・評価」を適度に取り入れていると考えることができる。それは、校種が下がれば、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」では、教師が意図するような学習が実現するとは限らないので、学習者に学習の責任を移譲できないという意識があるからだろう。中学校や高校で「ペア学習・評価」の方が多いのは、昨今は、特に英語教育においてペアトークが取り入れられていることに加え、「ペア学習・評価」ならば、座席の隣同士で机を移動させずに相談や意見交換、答え合わせなどをさせることができる上、「小集団学習・評価」よりも一人一人を学習活動に参加させやすいという理由からであろう。大学では、冒頭で述べたように、近年のアクティブ・ラーニングブームの中で「小集団学習・評価」が広がったと見ることができる。

### (2) 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」の位置づけ

校種を問わず、80%以上の教師が、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を取り入れると、学習態度や学習意欲に影響があると思っていた。しかし、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を取り入れる教師は少なく、それらを取り入れていても、74%以上の教師にとっては、評価活動を伴わない学習者同士の考えを集約するような位置づけに留まった。したがって、概ね8割以上の教師が、「評価規準」や「ルーブリック」に照らし合わせて自己評価や相互評価をさせたり、個人やペア、小集団学習での学習成果を全体化して広げたり深めたりするような「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を行っていなかった。とすれば、学習者にとっては、互いの考えをまとめるような学習経験しかなく、自身の学習効果を十分に実感できていないので、学習者から「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を取り入れてほしいという要望がないのは自明のことであろう。

### (3) 「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」に関する指導の実態

「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」を行えば、取り立てた指導や支援をして、エビデンスを検証しなくても、自ずと学習効果が上がると捉える教師が7割以上であった。つまり、7割以上の教師がこれらの学習を取り入れる目的や意義を学習者と共有したり、その進め方を十分に指導したりしていないのだから、学習者と評価規準やルーブリックを共有し、それらと

現下の学習状況を相互評価などにより照らし合わせる形成的・総括的なアセスメントのための手立てを講じないのも当然であろう。このような傾向は、「小集団学習・評価」よりも「ペア学習・評価」の方で強いため、「ペア学習・評価」は、教師主導の授業の中で、より一時的な位置づけになってしまう。したがって、「ペア学習・評価」や「小集団学習・評価」は、その学習効果を検証することなく、学習者の感想や振り返りなどの感覚的な評価に頼りがちになってしまうと言えよう。

最後に、本調査は、筆者の勤務先や実践協力校でアンケート調査を行ったので、例えば、中高一貫校のように特殊な背景があり、この結果をただちに一般化することはできない。しかし、小学校から大学までの教師が行うペア学習や小集団学習の実態を概観できたと言えよう。今後は、すでに実施した実践研究と合わせて、サンプル数や実施校を増やすことで、さらに一般化するための研究を進めたい。

## 注

- 1) 日本最大級の私立中学校・国公立中高一貫校情報サイト「シリタス SHIRITASU」(<http://www.chu-shigaku.com/detail/a00899.html>)によると、2020年度入試でのS中学校の偏差値は、51である。

## 引用文献

- 安藤輝次 (2018) 『みんなで深い学びを達成する授業』 図書文化。
- フィッシャー,D.&フレイ,N.吉田新一郎訳 (2017) 『「学びの責任」は誰にあるのかー「責任の移行モデル」で授業が変わる』 新評論。
- 石井英真 (2018) 『授業改善 8つのアクションー学び合えるチームが最高の授業をつくる!』 東洋館出版社。
- 木曾利雄 (2016) 「小学校算数授業における小集団による話し合い活動の有用性」『仁愛大学研究紀要 (人間生活学部篇)』 7, pp.83-94。
- 楠博文 (2016) 「次期学習指導要領が目指す方向性から見た今後の算数科における授業改善の視点」 就実大学『実教育実践研究』 9, pp.55-67。
- 松下佳代 (2017) 「深い学びにおける知識とスキル」『教育目標・評価学会紀要』 27, pp.1-10。
- 水野正朗 (2019) 「協同学習への教育法法学からのアプローチ」 日本協同教育学会編『日本の協同教育』 ナカニシヤ出版。
- Winstone,N. and Carless,D. (2019) *Designing Effective Feedback Processes in Higher Education – A Learning-Focused Approach* -, Routledge, pp.116-146。

## 付記

本アンケート調査に協力していただいたN県K市立S小学校、N県立S中学校、N県立S高等学校、私立S大学の皆様に感謝の意を表したい。

資料 1

「ペア学習・評価」と「小集団学習・評価」に関するアンケート

本アンケートでは、2人一組の「ペア学習・評価」と3人以上の「小集団学習・評価」の学習形態を授業でどのように活用しているのかを尋ねるものです。

普段のご授業の中で、これらの学習形態をどの程度、どのような目的で使っておられるのか、また、使い分けておられるのか、取り入れるに当たってどのような工夫をされているのか等について次の質問に対して最も近い選択肢の一つだけご回答ください。公務ご多忙のところ、お手を煩わせて申し訳ありませんが、何卒、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

校種	<input type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 大学
担当教科・科目	
教職経験年数	通算 年（複数の校種に渡る場合は、合算してください。）

【ご回答期限日】 12月 日( )
【ご提出先】

		ペア学習（2人一組）			
例	右の回答例のように、すべての質問について、「ペア学習・評価」の実施状況についてご回答ください。	毎時間する	大体する	時々する	全くしない
1	普段の授業で、最も頻繁に実施している授業形態はどれですか？	教師が説明して、学習者に伝える	学習者に発言させ、教師が定着させる	ペアで対話的な学びと評価をさせる	一人で学びを評価させる
2	授業の中で「ペア学習・評価」を実施しますか？	毎時間する	大体する	時々する	全くしない
3	説明的な授業の中でも、学びの節目で「ペア学習・評価」を実施しますか？	毎時間する	単元末にする	学期末にする	全くしない
4	学習者から「ペア学習・評価」を実施したいという要望がありますか？	いつもある	よくある	時々ある	全くない
5	学習者が互いの考えを集約する（まとめる）以外の「ペア学習・評価」を取り入れていますか？	毎時間する	大体する	時々する	全くしない
6	「ペア学習・評価」が、個人やクラス全体の学習態度や学習意欲に影響すると思いますか？	とても思う	やや思う	あまり思わない	思わない
7	「ペア学習・評価」の中で、学習者が「評価規準」や「ルーブリック」を創る機会を設けていますか？	毎時間する	大体する	時々する	全くしない
8	ペアが自分自身の学びを評価する力を伸ばすように支援（相互評価の機会を設ける等）していますか？	毎時間する	大体する	時々する	全くしない
9	「ペア学習・評価」を活用してクラス全体の学習成果を一人一人の学びと関連付ける場を設けていますか？	毎時間する	大体する	時々する	全くしない
10	「ペア学習・評価」における学び合いの意義や目的について学習者と共に話し合ったり考えたりしますか？	毎時間する	大体する	時々する	全くしない
11	ペア同士が学び合いの方法を工夫するように支援（演示、マニュアル提示、等）していますか？	毎時間する	大体する	時々する	全くしない
12	書画カメラやパソコン等の機器を使って学習者の学びの様子をクラス全体で共有していますか？	毎時間する	大体する	時々する	全くしない
13	「ペア学習・評価」に対する教師の介入が、学習成果に影響を及ぼしたという証拠（アンケート、振り返り等）を収集していますか？	毎時間する	大体する	時々する	全くしない
上記の回答についての補足やペア学習に関してのお考え等がありましたら、「質問番号」と合わせて、右欄にお書きください。					

裏面には、「小集団学習・評価」のアンケートがあります。引き続き、ご回答をお願いします。

		小集団学習 (3人以上)			
例	右の回答例のように、すべての質問について、「小集団学習・評価」の実施状況についてご回答ください。	毎時間 する	大体 する	時々 する	全く しない
1	普段の授業で、最も頻繁に実施している授業形態はどれですか？	教師が説明して、学習者に伝える	学習者に発言させ、教師が定着させる	小集団で対話的な学びと評価をさせる	一人で学びを評価させる
2	授業の中で「小集団学習・評価」を実施しますか？	毎時間 する	大体 する	時々 する	全く しない
3	説明的な授業の中でも、学びの節目で「小集団学習・評価」を実施しますか？	毎時間 する	単元末 にする	学期末 にする	全く しない
4	学習者から「小集団学習・評価」を実施したいという要望がありますか？	いつも ある	よく ある	時々 ある	全く ない
5	小集団内で互いの考えを集約する(まとめる)以外の「小集団学習・評価」を取り入れていますか？	毎時間 する	大体 する	時々 する	全く しない
6	「小集団学習・評価」が、個人やクラス全体の学習態度や学習意欲に影響すると思いますか？	とても 思う	やや 思う	あまり 思わない	思わな い
7	「小集団学習・評価」の中で、学習者が「評価規準」や「ループリック」を創る機会を設けていますか？	毎時間 する	大体 する	時々 する	全く しない
8	小集団内で自分自身の学びを評価する力を伸ばすように支援(相互評価の機会を設ける等)していますか？	毎時間 する	大体 する	時々 する	全く しない
9	「小集団学習・評価」を活用してクラス全体の学習成果を一人一人の学びと関連付ける場を設けていますか？	毎時間 する	大体 する	時々 する	全く しない
10	「小集団学習・評価」における学び合いの意義や目的について学習者と共に話し合ったり考えたりしますか？	毎時間 する	大体 する	時々 する	全く しない
11	小集団内で学び合いの方法を工夫するように支援(演示、マニュアル提示、等)していますか？	毎時間 する	大体 する	時々 する	全く しない
12	書画カメラやパソコン等の機器を使って学習者の学びの様子をクラス全体で共有していますか？	毎時間 する	大体 する	時々 する	全く しない
13	「小集団学習・評価」に対する教師の介入が、学習成果に影響を及ぼしたという証拠(アンケート、振り返り等)を収集していますか？	毎時間 する	大体 する	時々 する	全く しない
上記の回答についての補足や小集団学習に関してのお考え等がありましたら、「質問番号」と合わせて、右欄にお書きください。					

ご協力ありがとうございました。

本アンケート結果は、研究倫理に則って私個人の研究にのみ使用し、  
目的外使用は一切しないことをお約束します。

2019年11月 日

福本 義久

## 資料2

自由記述は、原文のまま掲載し、文末には、所属学部を記した。

### ペア学習中記述（10件）

- ・2人で話し合いの時間をもつことは設定がしやすいので良く設定しています。2人だからこそ緊張せずにリラックスして話し合える点を大事にしたいと考えています。（教育）
- ・ペアワーク、グループワークにおいては、「めあて」と「振り返り」を明確に位置づけ、特に「振り返り」は学習内容の理解を促し、深めるきっかけとなるため重要視している。特に、グループワークにおいては、様々な事象に対してどのように対処するかをグループで「考え、まとめ、伝える」という形態を取っている。（教育）
- ・時間を計ってペア学習をさせている。メリハリをつけないと授業の方向性や目標がズレてしまうことがあります。ペア学習の回数が多いと私語が多くなるがありました。（教育）
- ・1クラスの人数が多いので、小集団学習が多くなります。（教育）
- ・ペアでの学習となると、学習意欲がなかったり、全くコミュニケーションがとれない学生と組むことになった場合、ペアの学生が気の毒なので、3名以上のグループにあえてしています。（人文）
- ・実践したことがない。理由はよくわからないから。（人文）
- ・ペア学習の定義がわからなかったので、相談援助場面でのロールプレイ等を想定して回答しました。（人文）
- ・資格取得を目指す科目がほとんどのため、解き方の話し合いはさせるが、ペア学習は基本しません。（経営）
- ・（質問1については、）担当する授業が講義形式なのか演習形式なのかによって回答が異なる可能性があるのではないかと思います。（教育）
- ・そもそもペア学習は実施しないので、潜在的な要望があるのかもしれないが、私を知る由がありません。（学部未記入）

### 小集団自由記述（2件）

- ・学級全体の前で発表する等の活動は小中学校であっても大学であっても学習者の精神的プレッシャーは大きいですが、小集団ならばかなり軽減することができる。しかしながら、指導者側は、小集団を形成する場合の人間関係に配慮する必要がある。何よりも日頃からお互いの意見を認め合う仲間づくりが前提条件になる。（教育）
- ・小集団で発表させて他集団の評価をもらうことが多いです。（教育）

